

## -Program-

### 1部

#### バロックステージ

- ・シンフォニア第4番(アルビノーニ)
- ・ブランデンブルク協奏曲第3番(J. S.バッハ)

### 2部

#### 卒業の歌

- ・**抑げば尊し**
- ・**旅立ちの日に**
- ・**卒業ソング - その1 - ちょっと若者編**  
3月9日(レミオロメン)  
～YELL(いきものがかり)  
～さくら(森山直太郎)
- ・**卒業ソング - その2 - ちょっとoldな定番編**  
贈る言葉(海援隊)  
～卒業(斉藤由貴)  
～卒業写真(荒井由実)  
～卒業(尾崎豊)  
～翼をください(赤い鳥)



### 3部

#### アマデウスの小ト短調

- ・交響曲第25番ト短調(モーツァルト)



## <Stage1>

### バロックステージ

#### 1 シンフォニアa4 (トマゾ・アルビノーニ)

トマゾ・アルビノーニはイタリアのヴェネツィア出身の貴族で、1700年頃にかんりの数のオペラを作曲したと言われてはいますが、そのほとんどは残っていません。

変口長調のこの曲は、4声のシンフォニアとして作曲された6曲の中の5番目の曲で、軽快なリズムと親しみのあるメロディーは印象に残ります。 ●解説:高橋 文明(チェロ)

#### 2 ブランデンブルク協奏曲第3番

(ヨハン・セバスチャン・バッハ)

「ブランデンブルク」はドイツの首都ベルリンがある地方の州の名称です。18世紀初頭にこの地方を治め、東方の国境警備を担当していたクリスティアン・ルードヴィヒ辺境伯(役職名)に対してJ.S.バッハが贈ったとされる、いろいろな編成から成る6曲の協奏曲に対し、後世になって「ブランデンブルク協奏曲」という名称が付けられたと言われています。

第3番は3楽章からなっていて、編成は弦楽器による合奏協奏曲です。第1楽章は特に速さの指定はありませんが印象に残る導入部となっています。第2楽章アンダンテはチェンバロによる短いカデンツァ、そして軽快な第3楽章へと続きます。皆さんもどこかで聴いたことがあるでしょう。 ●解説:高橋 文明(チェロ)

## <Stage2>

### 卒業の歌

第2部のテーマは「卒業の歌」です。もう少しで卒業式シーズン、卒業にまつわる定番曲から近年のヒットJ-ポップまで、いろいろと集めてみました。たっぷりと思いつきに浸ってください。

#### 1. 抑げば尊し

(訳詞:大槻文彦・他 作曲:不詳  
編曲:島崎 洋)

卒業式と言えばこの曲ですが、最近は昔ほど歌われなくなったそうです。でもこの

メロディーを聴くと、明日への希望と別れの悲しさが入り混じるノスタルジックな気持ちになりますね。

#### 2. 旅立ちの日に

(作詞:小島登 作曲:坂本浩美  
編曲:島崎 洋)

1991年に埼玉県の中学校の先生によって作られた曲です。近年では卒業ソングの定番として全国の卒業式で歌われています。とても美しいメロディーは弦楽合奏にもピッタリです。

#### 3. 卒業ソングメドレー パート1

ちょっと若者編 (編曲:島崎 洋)

比較的新しい卒業J-POPを3曲セレクトしてみました。皆さんはどこまでご存知でしょうか? 「3月9日」と「YELL」は最新の卒業ソングランキングでも上位に入ります。「さくら～独唱」は平成15年の大ヒット曲。卒業ソングとしても定番です。

・3月9日(レミオロメン 詩・曲:藤巻亮太)～・YELL(いきものがかり 詩・曲:水野良樹)～・さくら(森山直太郎 詩・曲:森山直太郎)

#### 4. 卒業ソングメドレー パート2

ちょっとoldな定番編 (編曲:島崎 洋)

日本の流行歌の中から、オールタイムで卒業ソングの定番を独断と偏見で選びました。他にもたくさん選びたかったけれど、ゴメンナサイ……。でもきっと「あなたにストライク」な曲があると思いますよ。

・贈る言葉(海援隊 詩:武田鉄矢 曲:千葉和臣) ～・卒業(斉藤由貴 詩:松本隆 曲:筒美京平) ～・卒業写真(荒井由実 詩・曲:荒井由実) ～・卒業(尾崎豊 詩・曲:尾崎豊) ～・翼をください(赤い鳥 詞:山上路夫 曲:村井邦彦) ●解説:島崎 洋(指揮・編曲)



## <Stage3>

### アマデウスの小ト短調

映画「アマデウス」が始まって2分過ぎ、うめき声に召使がドアを開けると タタータータータタータータ タタータータ タタータータ 血まみれのサリエリ、馬に引かれた担架に乗せられ雪のウィーン(実はプラハ)の夜道を運ばれる横では舞踏会が。踊り手達はこの曲の低音パートリズムに乗っている様?

前半のリピートで曲の最初に戻り、12小節までが上記のフレーズ。このシーンですっかり有名になった Symphony No.25 G moll (ト短調)。

モーツァルトの41曲のシンフォニーのなかにたった2曲しかない短調の1曲、しかも2曲ともト短調で、もう一曲は40番「大ト短調」と呼ばれ、対して25番は「小ト短調」と呼ばれます。

この曲は、モーツァルト17歳の年、イタリア、ウィーンと旅行しザルツブルグに戻りひと月半で書いた4曲のシンフォニーの中の一曲です。

楽器編成はまだ小さく、弦5部にオーボエ2、ホルン4(この時代のホルン4本は珍しい)、ファゴット2のみで、ハイドンの交響曲といわれても、信じてしまいそうです。

#### 疾風怒涛のごとく始まる第1楽章

: Allegro con brio ト短調

#### ゆっくり長調で始まる第2楽章

: Andante 変ホ長調

#### 踊りにくそうな第3楽章

: Menuetto ト短調

: Trio 中間部のトリオは管楽器のみ

#### また疾風怒涛で始まる第4楽章

: Allegro ト短調

1、4楽章の疾風怒涛とは、[シトルム・ウト・ドラウ]。当時、ゲーテ・シラーなどを中心にドイツで興った文学革新運動で 理性偏重の啓蒙主義に反対し、感情の自由と人間性の解放とを強調した運動でした。モーツァルトもこの影響を受けたと思われ、ハイドンにもこの影響を受けたと思われる第39番ト短調があります。加えて、モーツァルトの弦楽四重奏曲 第15番 二短調 K 421 も 弦楽四重奏曲では少ない短調で、渋い名曲です。 ●解説:田中 寛(ヴァオリン)